



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

クアラルンプール日本人学校の国際交流(国際理解教育・現地理解教育)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-10-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小川, 陽司 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00174426

クアラルンプール日本人学校の国際交流

前クアラルンプール日本人学校 教諭

愛知県豊橋市立新川小学校 教諭 小川 陽 司

キーワード：現地理解

1. はじめに

多くの民族・宗教を受け入れる寛容な国、多民族国家マレーシア。私の赴任した2007年はマレーシアの独立50周年であり、「VISIT MALAYSIA」の合言葉で華々しい観光年となり、真にマレーシアの活力を肌で感じる年となった。WAWASAN2020（2020年の先進国入り）を目指すバイタリティーあふれるこの国は、マハティール首相の時代の東方政策（急激な成長を遂げた東方の日本や韓国に学んでマレーシアを発展させようとする思考）以来、毎年多くの留学生が日本の大学で学んでいる。そして日本から帰国した元留学生たちがつくる団体ALEPSは、毎年夏に日本人学校の生徒が参加しているカンボンホームステイ（田舎のマレーシアの村へのホームステイ）を全面的にサポートしてくれている、日本人学校にとって強力な支援団体である。

また、日本人学校では、総合的な学習として小学部から中学部の全学年がローカル校へ出かけたり、招待したりしながら、国際交流を実施している。

さらに、小学部5年生以上の児童から中学部3年生の生徒までを対象に、サークル活動が行なわれ、ISAKL大会（インターナショナルスクール校の集まるスポーツ大会）でスポーツを通じた交流の機会もある。

在任中は、中学部であったため、中学部の国際交流について以下に報告したい。

2. カンボンホームステイ（マレーシアの田舎の村へのホームステイ）

多民族国家マレーシアにおいて先住民俗であるマレー系は約65%の割合を占めるが、カンボンホームステイは、マレー系住民の構成する田舎の村（カンボン）にホームステイをするものである。時期は夏休みに入ってしまう土曜日から月曜日までの2泊3日で実施される。マレー系はほとんどがイスラム教徒であり、生活はイスラム教のお祈りを中心に進められているため、日程もそうしたお祈りの支障がないように金曜日を外したり、ラマダン期間にならないかの確認が必要だったりする。日本人学校小学部5年生以上の希望者が毎年100名以上参加する伝統行事である。

事前に参加者を対象にマレー語講座を設定し、前出のALEPSの方に講師をしていただいている。私の参加した2007年のホームステイにはカンチョンダラ村にお世話になった。受け入れ先の家庭には児童や生徒が2人1組くらいで受け入れてもらい、どっぷり現地の田舎の生活を体験させてもらうこととなった。2日目の夜には現地の方々との文化交流会があり、日本人学校の児童、生徒は和太鼓の演奏や空手、剣道などの演武、日本の歌謡曲の熱唱等があったのに対し、現地の方によるマレーダンスの披露があった。また、参加した日本人学校の先生にマレー式結婚式の新郎新婦になってもらい、その模擬結婚式を参加者みんなで見守るという貴重な体験もあった。会の最後には日本人学校オリジナルの「お日様音頭」をみんなで踊って会を締めくくった。



交流したカンボンの小学校の児童たち

最終日午前中には、現地校への学校訪問が企画され、小学部児童と担当教師は小学校へ、中学校生徒と担当教師は中学校へそれぞれ訪問をした。まず、児童生徒が現地校の先生の授業に参加させてもらい、続いて日本人学校の先生が日本の文化を紹介する授業を行った。

3. 中学部の国際交流

学年	交流相手校	交流内容
中1	Alam Shah (スマートスクール)	相手校を訪問し、相手校とグループ交流 ・マレーの文化体験 ・交流グループと相手校のキャンティーン（食堂）で共に食事 ・相手校の先生の授業に参加
中2	Sri Puteri (スマートスクール)	日本人学校に相手校を招待しグループ交流 ・日本の文化を紹介し、体験してもらう 茶道 かるた 剣玉 書道 ドッジボール ・昼食を一緒に作って食べる お好み焼き おにぎり
中3	ローカル校3校	世界最大の規模を誇る7月のマレーシアの盆踊り大会。地元紙では3万人と紹介。槽上の和太鼓の叩き手と踊り手は毎年、中3が担当。曲は、「大東京音頭」「東京音頭」「花笠音頭」「お日さま音頭」の4曲。当日1週間前にローカル校の生徒を招いて踊りを日本人学校の生徒が教え、当日は槽のすぐ下をそのローカル校の生徒が円を作り一緒に踊るといった交流。

4. ISAKL国際大会への参加

ISAKL国際大会（インターナショナル スクール アソシエーション クアラルンプール）では、インターナショナル校が一堂に会して体育競技を行う。クロスカントリー、陸上、水泳、サッカー、バスケットボール、バドミントン、バレーボールがあり、本校の児童生徒が外国人の児童生徒と競い合う貴重な体験となっている。



ISAKL U13バスケットボール大会

5. おわりに

日本人学校の児童生徒たちは日常生活の中に身近に異文化、異民族に接する機会があるものの、意外と現地の人々と交流ができていない児童生徒は少ないのが現状である。そうした児童生徒たちにとって現地の児童生徒との交流経験は非常に貴重な体験となっている。またこうした活動の展開には国際交流を担当する現地スタッフのとの協働が非常に重要である。